

ITU-T SG15 会合 (9/28-10/9) 全体対処方針

資料 2-伝-2-SG15-全対	全体対処方針
資料 2-伝-2-SG15-対一覽	課題別対処方針一覽
資料 2-伝-2-SG15-寄一覽	提出寄書一覽

## ITU-T 会合への対処方針

(会合名：ITU-T SG15 第2回会合)

平成 21 年 9 月 15 日

提出元：日本代表団

開催期間	2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス国ジュネーブ
出席予定者(所属): 敬称略			
総務省参与	前田 洋一、中西 健治		
NTT	荒木 則幸、大原 拓也、可児 淳一、小池 良典、古敷谷 優介、近藤 芳展、白木 和之、 冨田 茂、中島 和秀、成川 聖、丸吉 政博、村上 誠、吉田 英二、吉田 龍彦		
日本通信電線線材協会	石川 弘樹、谷川 庄二、忠隈 昌輝		
富士通	栃尾 祐治、星田 剛司、片桐 徹		
KDDI	吉兼 昇、小野寺 勇太		
三菱電機	横谷 哲也、向井 宏明、佐藤 浩司、エリック ラビロニア		
NEC	吉原 知樹、櫻井 暁、鎌田 慎也、松本 健彦、塩入 智美、門脇 真、小山 徹		
沖電気工業	黒田 康之		
ソフトバンクテレコム	笠 史郎		
川崎マイクロエレクトロニクス	Joseph Choghi		
パナソニック	熱田 昭、黒部 彰夫、ステファノ・ガリ、リー・ゲールド、マイク・ステルツ		
住友電工	大道 文雄、辻 伸治		
CIAJ	石部 和彦、望月 健		
日立製作所	矢島 祐輔、水谷 昌彦、鷹取 耕治、宇田 哲也、劉 偉		
以上 52 名			
<p>これまでの経緯：</p> <p>SG15は、アクセス網及び光伝達網全般を主管とする。前会期のSG15では、NGN構築に向けてITU-T全体として取組むという背景の下、SG13と連携を取りつつ、高速アクセスシステム及び光伝達網におけるパケット伝送技術に関する標準を策定してきた。今会期では、前会期におけるSG6の光ケーブル関係課題、SG4の試験と測定に関する課題、SG13のOAM課題がSG15に移されることになり、アクセス網とコア網の伝送標準を扱う最大規模のSGとして位置付けられることになった。これら統合により、伝達網とインフラ全般の課題を扱うSGになったことがSG15新体制の特徴といえる。</p> <p>■ WP1概要：アクセス網</p> <p>SG15の主管事項の一つであるアクセス網を統括する。Q.1、Q.2、Q.4の3課題からなる。</p>			

Q.1では、アクセス網標準化概要及び動向一覧の各種情報の更新や、トランスポートレイヤでの汎用ホームネットワーク仕様の詳細規定であるG.hntreqの勧告化を予定している。

Q.2では、G-PON（G.984シリーズ）や1G-MC（G.986）、光アクセスシステム全般の勧告化を推進。G-PONについては、互換性向上のための機能の追加やOMCI仕様の改訂、及びMCを含む次世代光アクセスシステムに向けた円滑な移行手法が検討されている。また、10GクラスPONであるXG-PONの検討が開始されている。

Q.4では、xDSLに関する検討の他、宅内ネットワークで使われる汎用送受信器の仕様G.hn及びG.cx等、メタリックシステム全般を検討している。

#### ■ WP2概要：OTN技術

SG15の主管事項の一つである光伝達網において、主として物理層に関する仕様を検討する。また、前会期のSG6で検討されてきた屋外設備の設置・保守関連に関する課題が追加されており、Q.5、Q.6、Q.7、Q.8、Q.16、Q.17、Q.18の7つの課題からなる。

Q.5では、アクセス系の光化、既存設備の有効活用、並びに高速・WDM伝送への対応を目的とした、光ファイバケーブルの特性及び試験法の制改訂に関する議論を進めている。

Q.6では、光伝送システムの特長および光インターフェースについて検討している。波長多重伝送、超高速光伝送(40Gb/s、100Gb/s)が主な検討課題であり、前会合ではG.Sup39[光システム設計]の改訂を合意した。

Q.7では、光伝達網や光アクセス網で用いられる光部品インターフェースシステムの特長を検討する。前会合ではPON用光スプリッタの波長帯規定を修正したG.671の改訂を合意した。

Q.8では、既存及び新規光ファイバ海底ケーブルシステム及び試験法に関する検討を進めており、新規光海底システム向けG.lcasub並びにG.mdasubが審議されてきている。

Q.16では、主にケーブルなどを敷設するために所外に展開する基盤設備、ケーブル及びその敷設方法に関する検討を進めている。前会合では、引き落とし用光ファイバケーブル、集合住宅への光配線方法、それぞれに関する新規勧告作成が合意された。

Q.17では、光ファイバケーブル網の保守運用に関する機能・試験方法に関する検討を進めており、前会合では新規勧告草案L.wsn[屋外無線モニタリングシステム]の審議が行われた。

Q.18では、PONに代表される光アクセスネットワーク構成及び関連架空構造物の設計に関する検討を進めている。

#### ■ WP3概要：OTNアーキテクチャ

SG15の主管事項の一つである光伝達網において、アーキテクチャに関する仕様を検討する。なお、今会期からSG13及びSG4からの課題がSG15に移されている。Q.3、Q.9、Q.10、Q.11、Q.12、Q.13、Q.14、Q.15の8つの課題からなる。

Q.3では、OTNについての標準化状況／計画等をまとめた文書の更新、及び光伝達網／イーサネット関連勧告における用語関連勧告を検討。また、OTN関連課題間の調整を実施している。

Q.9では、SDH、OTN、Ethernet、MPLS(-TP)の装置処理・プロテクションを中心に検討を行っている。前会合では、Ethernet関連について、装置勧告G.8021の改正、Ethernetリングプロテクション勧告G.8032の改正をコンセンストした。

Q.10では、EthernetやMPLS-TPを中心に、伝達網におけるOAM要求条件やインターワーキング等を検討している。前会合で、MEF文書との整合を図るためG.8011、G.8011.1、G.8011.2が改訂された。

Q11では、SDH、OTN、ATM、イーサネット、MPLSの多重構造、フレーム構造、マッピング論理インタフェース条件、及びイーサネットサービス規定を検討する。前会合では、OTN階梯勧告G.709 Amd.3がコンセントされ、100Gを超える新階梯OTU4などが規定された。これに連動し、G.7041を改正コンセント、G.sup43改訂同意した（日本寄書をそのまま反映）。

Q.12では、回線やパケットに代表される一般的なアーキテクチャに加えて、SDH、OTN、Ethernet over Transport、MPLS(-TP)、ASONなど技術依存のアーキテクチャが検討されている。前会合では、G.800[統合モデル]の改正がコンセントされた。また、WSONの検討がIETFで活発化したこと等を受け、OTNアーキテクチャ（G.872、G.800、G.8080）でも議論が開始された。

Q.13では、ネットワークにおけるクロック要求条件・ジッタ／ワンダ規定や、パケット網においてTDMを伝送するための規格を検討している。

Q.14では、SDH、OTN、Ethernet over Transport、MPLS-TPなどの管理及び情報管理モデルなどM-Plane勧告、ASONのアーキテクチャ及び要求条件に基づく制御／ディスカバリ／マネジメントに関するプロトコル無依存／依存型の各種C-Plane勧告を検討している。

Q.15では、OTN測定器、SDHやOTNのジッタ・ワンダ測定器、同期イーサネット（SyncE）の測定器に関する検討を行っている。前会合では、O.182[OTN用測定器]の改正が合意された。

今会合での主な検討事項等：

前会合におけるSG6の光ケーブル関係課題、SG4の試験と測定に関する課題、SG13のOAM課題がSG15に移された体制のもと、今会合の第2回会合として開催される。課題別には、以下に示す主な事項が審議される。

#### ■ WP1

Q.1では、エディタ提示のG.hntreqの勧告草案を検討し、他SGや他機関及びセクタメンバから送付されたコメントに従い勧告化に向けた更新を行う。

Q.2では、G-PONについて、互換性検証試験結果の反映や1G-MC用OMCIとの統合を図るため、OMCI勧告G.984.4の改正（Amendment 2）のコンセントが予定されている。またG.986もOMCI転送方法についてIEEEとの合意が得られたことを踏まえ、コンセントが予定されている。XG-PONは、上り2.5Gb/s下り10Gb/sの物理層仕様がG.987.2としてコンセントされる。またXG-PONのサービス要求条件もG.987.1としてコンセントされる。

Q.4では、DSL関連課題として、G.It関連（G.996.2 Amd.1）及びG.int（G.999.1）の承認、G.inp及びG.vectorのコンセントが予定されている。また、G.hnに関しては初版勧告G.9960の承認が予定されている他、G.9960 Amd.1（日本向けAnnex C関連あり）、G.hn（データリンク層仕様）、共存仕様G.cxのコンセントが予定されている。

#### ■ WP2

Q.5では、シングルモードファイバ（G.652）、非零分散シフトファイバ（G.655）、低曲げ損失シングルモードファイバ（G.657）並びにフィールド試験法（G.650.3）の改訂に向けた議論、及び光ファイバの実使用環境での特性を記述する新規補足文書（G.Sup.gafc）の審議がなされる予定である。

Q.6では、G.959.1[OTNドメイン間インタフェース]、G.697 [DWDMシステム用光モニタ]、G.695[CWDMインタフェース]、G.698.2[単一チャネルインタフェースを有する光増幅DWDMアプリケ

ーション]、G.693[イントラオフィス用光インタフェース]、それぞれの改訂合意を目指す。

Q.7では、改訂勧告草案 L.50[所内用光配線架]の勧告草案の審議の他、Lシリーズ勧告の整理・統合に向けた審議が行われる予定である。

Q8では、新勧告G.lcasubのコンセントに向けたドラフトの審議、及び新勧告G.mdasubについても勧告化にむけた審議を継続する予定である。また、G.971[光海底システムの一般事項]の改訂、G.976の新規 Appendixとして記載が合意された光海底ケーブルのラマン利得試験法のドラフト審議等がなされる予定である。

Q.16では、今会合でコンセント予定のL.teib[集合住宅用光ファイバ配線システム]の勧告草案審議、次会合でコンセント予定のL.cda[引き落とし用光ファイバケーブル]の勧告草案を審議する。

Q.17では、今会合でコンセント予定であるL.wsn[屋外設備の無線モニタリングシステム]の勧告草案審議、次会合でコンセント予定であるL.ofid[光ファイバ心線対照技術]の勧告草案を審議する。

Q.18では、L.pon[FTTxにおけるPON構成]に関する新勧告草案の審議を行う。

### ■ WP3

Q.3では、各種用語関連勧告の作成推進を行う予定。また、光イーサネット、OTN関連課題のコーディネーションを行う。

Q.9では、G.8032[Ethernet リングプロテクション]、G.8021[Ethernet 装置勧告]、G.8031[Ethernet 線形プロテクション勧告]、G.808.1[一般的プロテクション]、G.798[OTN装置]、G.781[同期機能]などコンセントが行われる他、G.873.1[OTN線形プロテクション]、G.798.1[OTN装置タイプ]などの検討に関が行われる。

Q.10では、Y.1731[イーサネットOAM]勧告の改正が行われる予定。また、G.8011.3[イーサネット仮想専用VLAN]、G.8011.4[E-tree]、G.8011.5[イーサネット専用LAN]については、新規勧告のコンセントが予定されている。なお、MPLS-TP関連については勧告作業を当面凍結するが、IETF MPLS-TP OAM関連の完成に貢献する。

Q.11では、OTN拡張の議論（GMP、flexible ODUなど）及び勧告G.709[OTNインタフェース]の改訂コンセントが行われる予定。

Q.12では、ASONアーキテクチャ（G.8080）の改正(Amd2)、イーサネット関連アーキテクチャ（G.8010v2）の改訂、Unified Model（G.800）の改正、のコンセントを予定。またMPLS-TPアーキテクチャ（G.8110.1）の改訂、WSON(Wavelength Switched Optical Network)に関する議論が行われる。

Q.13では、時刻同期プロトコルを規定するIEEE1588v2のTelecom ProfileをG.8264.1(仮)として新規コンセント、OTNジッタ&ワンダ（G.8251）の改訂コンセントを予定。また、パケット網における時刻位相同期方式(G.8266)の継続検討を行う予定である。

Q.14では、G.7716[ASONオペレーションアーキテクチャ]及びG.8052[EoTの protocols 独立情報管理モデル勧告]を新規コンセント予定。また、Call Modification機能を追加するG.7713[ASONシグナリング]の改正、MPLS-TPのDCNを修正(Generic ACH追加)するG.7712(DCN)の改正に向けて検討する。

Q.15では、O.172[SDHジッタ・ワンダ測定]の改訂、O.SyncEjitter[SyncE用ジッタ・ワンダ測定]の新規コンセントを予定している。

基本的な対処方針：

以下の課題を中心に、審議への積極的寄与を図る。

### ■ WP1

Q.1では、G.hntreqにホーム網遠隔管理要求条件を盛り込みつつ、G.hntreqの勧告化に向けた完成度を向上させる。

Q.2では、TTC仕様1G-MCのG.986をコンセント、XG-PONの要求条件（G.987.1）及び物理層仕様（G.987.2）のコンセントを目指す。また、任意の光アクセスシステムへの適用が可能な汎用OMCIの検討促進を図る。

Q.4では、G.vectorでの寄書提案を行い、日本向けMIMOモデルに関する記述をAppendixに追加採用するよう積極的に審議に加わる。G.hn関連では、G.9960の承認、G.9960 Amd1のコンセント（Annex C含む）、G.hnにおけるG.cxの必須化及びG.cxのコンセントに向けた寄書提案を行い、積極的に審議に加わる。

## ■ WP2

Q.5では、勧告G.650.1 Appendix II改訂の合意、新規補足文書G.Sup.gafc初版の合意、改訂勧告G.652及びG.655コンセントを目指すと同時に、G.650.3の改訂検討に向け積極的に寄与する。

Q.6では、100G光伝送方式に対する標準化検討の活発化に努めると同時に、これまでに提案している10G CWDMインタフェース仕様がG.695の改訂に正しく反映されてコンセントされるようにフォローする。

Q.7では、L.50については既存勧告との変更点を確認し、必要があれば修正を求める。また、今後重要となる40Gb/s、100Gb/s級の高速信号伝送を可能とする新たな光変復調方式に対応した光部品特性についての議論を促進、先導する。

Q.8では、新勧告G.lcasubコンセントに向けたドラフト作成及びG.mdasubドラフト作成に向けた積極的寄与を行う。また、G.971、G.976、G.977、及びその他既存勧告の改訂検討に向け積極的に寄与する。

Q.16では、引き落とし用光ファイバケーブルに関する勧告草案作成においては日本にとって技術的不都合が無いように留意しながら、勧告化を積極的に進める。また、集合住宅の光配線法に関して、日本の状況と相違が無いよう勧告案の内容を精査し、必要があれば修正を求める。

Q17では、L.ofid[光ファイバ心線対照技術]について、日本の設備に適合する曲げ漏洩光検出による光ファイバ心線対照方式を勧告に反映し、技術的不都合が無いよう勧告化を積極的に進める。L.wsn[屋外設備の無線モニタリングシステム]に関しては、日本の状況と相違が無いよう勧告案の内容を精査し、必要があれば修正を求める。

Q18では、エディタ(日本)よりFTTxにおけるPON構成に関する新勧告草案（TD）を提出し、技術的不都合が無いよう日本主導の下で勧告化を積極的に進める。

## ■ WP3

Q.3では、関連課題間のコーディネーション、オーバービュードキュメント(OTNT SWP)の最新化に関して、積極的に寄与する。

Q.9では、G.8032、G.798、G.808.1など、ほぼ全般（Ethernet、OTN、MPLS-TP）に渡り各社より寄書提案を行いコンセント、または完成度向上に貢献する。

Q.10では、Y.1731に関して寄書提案を行い、改正コンセントまたは既存の議題解決に取り組む。MPLS-TP OAMに関しては、ITU-Tへの寄書提案、或いはad hoc mpls-tp 活動を通してIETF MPLS-TP OAM 関連I-Dの完成に貢献する。

Q.11では、G.709改訂のコンセントが予定されているため、これまでの会合での提案事項や合意事項

を踏まえて積極的に寄与する。また、OTU3/OTU4のマルチチャネル伝送におけるビットエラー耐性に関する検討を進めることを提案し当該規定の完成度を高めることに貢献する。

Q.12では、WSONおよびMPLS-TPまたはG.8110.1に関連する寄書提案を進め貢献する。

Q.13では、コンセント予定の勧告（G.8251、G.8264.1）中心に動向把握を行う。

Q.14では、G.7718[ASON管理] への要求条件の追加提案を行い、勧告への反映に向けて積極的に寄与する。また、G.8151[MPLS-TP装置管理]関連についても寄書提案を行い貢献する。

Q.15では、O.SyncEjitter勧告の勧告化作業、およびO.172/173 40Gジッタ検証方法の検討を進め、積極貢献する。

#### 今会合で決定(decision)される予定の勧告案一覧

勧告番号	種別	勧告名	最新文書番号	関連課題番号

(注) 種別には新規、改訂(revision)、付属書(Annex)、改正(Amendment)、訂正(Corrigendum)の別を記載。

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 2)

## ITU-T 会合への課題別対処方針一覧

(会合名：ITU-T SG15第2回会合)

提出元：日本代表団

課題番号	課題名	対処方針	寄書件数	備考
1	アクセス網標準化の調整	A	1	
2	アクセス網における光システム	A	2	
3	光伝送網の一般的特性	A	1	
4	メタリック線によるアクセス伝送装置(xDSL)及び宅内ネットワーク用送受信器(PNT)	A	8	
5	光ファイバ及びケーブルの特性と試験方法	A	4	
6	陸上伝達網における光システムの特性	A	1	
7	光部品及びサブシステムの特性	A	2	
8	光ファイバ海底ケーブルシステムの特性	A	3	
9	伝送装置及びネットワークの切替・復旧	A	22	
10	伝送網向けOAM	A	5	
11	伝送網の信号構造、インタフェースおよびインタワーキング	A	3	
12	伝送網アーキテクチャ	A	1	
13	網同期と時刻配信の品質	B	0	
14	伝送システム及び装置の管理と制御	A	1	
15	試験および測定技術と装置	A	2	
16	物理的光基盤設備およびケーブル	A	0	
17	光ファイバケーブル網の保守運用	A	0	
18	光アクセスネットワークの設計	A	0	

(注)対処方針の欄には、A:達成すべき事項がある（積極的に審議に寄与する）、B:達成すべき事項がない（動向把握）、C:静観のいずれかを記入すること。

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 5)

**ITU-T 会合への提出寄書一覧**  
(会合名: ITU-T SG 15 第2回会合)

**WP1**

	寄 書 名 (和訳)	関連課題番号	分類	提出元 (原案作成元)	備考
1	G.hntreq へのホーム網遠隔管理要求条件に関する提案	1	C	NTT	別途HN合同 WGIにて審議済
2	G.omci の構成案の提案	2	C	NTT、沖電気、NEC、住友電工、日立、三菱電機	
3	新勧告 G.987.1 ドラフトに対するアップデート提案	2	C	NTT	
4	G.hn:Fcs の上限値変更の提案	4	C	NEC	別途HN合同 WGIにて審議中
5	G.vector:G.vector Appendix への日本環境に最適化された漏話チャンネルモデルの提案	4	B	NTT、NEC、住友電工、OKI	TTC合意
6	G.hn: G.9960 承認に関する提案	4	C	NTT <u>日本寄書として検討</u>	別途HN合同 WGIにて審議済
7	ラストコールコメントに対する分析とコメント	4	C	パナソニック	現在作成中 別途HN合同 WGIにて審議済
8	G.9960 送信機が電力線上で動作する場合に G.cx 機能を必須のものとする要求	4	C	川崎マイクロ、NEC、NTT、シャープ、パナソニック <u>日本寄書として検討</u>	別途HN合同 WGIにて審議済
9	ITU-T G.9960 (G.hn)と ISO/IEC 12139-1 との共存機能を必須のものとする要求	4	A、C	パナソニック	別途HN合同 WGIにて審議済
10	G.cx 対応に必要な G.hn Management Message の提案	4	C	パナソニック	別途HN合同 WGIにて審議済
11	G.cx コンセントに関する提案	4	C	パナソニック <u>日本寄書として検討</u>	別途HN合同 WGIにて審議済

**WP2**

12	G.650.1、Appendix II の改訂提案	5	A	NTT	
13	新規補充文書 G.Sup.gafc に関するコレスポンスサマリー	5	B	NTT	共同提案
14	ファイバマクロベンディングの検出方法提案	5	C	ソフトバンクテレコム	
15	G.652、G.655 の改訂に関する提案	5	C	線材協会、日本電信電話株式会社	

16	100G アプリケーションコードに対する勧告 G.696.1 改訂提案	6	C	NTT	
17	G.671 における PON 用光スプリッタ仕様の提案	7	C	NTT	
18	高速大容量 WDM システムのための高度変調方式 における光部品の議論の提案	7	A	NTT	
19	COTDR パラメータの定義	8	C	CIAJ	
20	改訂勧告 G.971、Appendix I の修正提案	8	C	NTT	
21	勧告 G.976 新規 Appendix のドラフト案	8	C	NTT	

### WP3

22	OTNT 標準ワークプランのアップデート提案	3	C	NTT	
23	G.8021 のロス測定プロセスに関する修正提案	9	C	NEC	
24	G.8031 における同一優先度のリクエストに関する テキスト追加提案	9	C	NEC	
25	G.8032 における初期状態に関する考察	9	C	NEC	
26	G.8032 における強制切替状態時の回線障害のマス ク処理	9	C	NEC	
27	G.8032 における相互接続リングの構成ルール	9	C	NEC	
28	G.8032 におけるガードタイマに関する考察	9	C	NEC	
29	R-APS チャネルの VID と Ring-ID の設定方法のガ イドライン提案	9	C	NTT	
30	Interconnection Flush logic の拡張提案	9	C	NTT、NEC	
31	リモート MS/FS ノードへのクリア実行時の状態遷 移表の明確化	9	C	NTT	
32	マルチリング網における二重故障時のプロテクシ ョン動作のサポート	9	C	NTT	
33	MAC アドレス学習テーブル消去の単位	9	C	NTT	
34	自ノード ID よりも優先度の高いノード ID を持っ た NR メッセージを受信した場合の RPL Owner の 動作に関する提案	9	C	NTT	
35	G.8031 の 11.2.1 章に対する文章提案	9	C	三菱電機	
36	G.ptneq におけるレイヤスタックモデル規定全般に 関するコメント 及び文面提案	9	C	(株)日立製作所	
37	G.808.1 のスコープ明確化に関するコメントとテキ スト 提案	9	C	(株)日立製作所	
38	G.808.2 の本文記載不足部分に対するテキスト 提案	9	C	(株)日立製作所	
39	G.808.2 のスコープ明確化に関する 提案	9	C	(株)日立製作所	
40	G.806 再構築提案	9	A	富士通	
41	G.873.1 更新における検討	9(, 3)	C	富士通	
42	改版ドラフト G.798 (TD98/Plen)へのコメント	9	C	富士通	

43	G.8121 修正提案と MPLS-TP クライアントとしての Ethernet に関する考察	9(, 14, 12, 10)	A, C	富士通	
44	ETH-LT 更新合意の提案	9(, 10)	C	富士通	
45	MPLS-TP OAM メンテナンスポイント(MIP and MEP)の定義に関する提案	10, 12	B	NTT	
46	Y.1731 の性能測定に関する考察	10	C	NEC	
47	MPLS-TP OAM に関する追加の要求条件の提案	10	B	NTT	
48	MPLS-TP OAM 要求条件に関する修正提案	10	C	NTT	
49	Y.1731 Appendix I 削除提案	10	C	富士通	
50	OTUk のマルチチャネル伝送時におけるビットエラー耐性の改善	11	A	NTT	
51	改版ドラフト G.709 (TD95/Plen)へのコメント	11	C	富士通	
52	改版ドラフト G.709 (TD95/Plen) における明記提案	11	C	富士通	
53	WSON への多階層光クロスコネクトスイッチング機能追加の提案	12	A	NTT	
54	G.7718 の要求条件の追加	14	C	ALU、NTT	
55	O.SyncE jitter 勧告草案	15	C	CIAJ	
56	STM-256 基準送信器評価法の追加	15	C	CIAJ	

(注) 分類の欄には、A：問題提起のための寄書、B：新規勧告草案提示の寄書、C：既存勧告案に対する審議進捗のための寄書のいずれかを記入すること。また、寄書の原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。